

▽ 熊谷 久世 教授 KUMAGAI, Hisahiro



学 科： 法学部 地域行政学科
 担当科目： 国際私法、 家族法、 国際民事訴訟法
 基礎演習、 専門演習
 現代司法特論(大学院法学研究科)

学歴等のプロフィール

- ①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

- ① 名城大学大学院法学研究科博士後期課程修了
 ② 法学修士
 ③ 国際私法学会、 国際法学会、 日台法律家協会
 ④ 沖縄市公害対策審議会委員(会長)、 琉球大学法科大学院兼任講師(国際私法・国際民事訴訟法)

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1.教育活動・方法の実践例 1)基礎演習 I (法律学科・地域行政学科) 2 コマ	2010.4~2011.3	2010 年度、通年、1 年次対象、少人数ゼミ形式(1 年次専門必修科目・4 単位・受講者 15 名程度)主に、新聞・雑誌を題材に読み・書き・話す作業の習熟に取り組む。
2)基礎演習 II (地域行政学科)1 コマ	2010.4~2011.3	2010 年度、通年、2 年次対象、少人数ゼミ形式(2 年次専門必修科目・4 単位・受講者 16 名)身近な社会事象からテーマを求め深く掘り下げ研究し報告する能力の向上に取り組む。
3)専門演習 I・II(法律学科・地域行政学科)2 コマ	2010.4~2011.3	2010 年度、通年、3・4 年次対象、少人数ゼミ形式(3・4 年次専門必修科目・4 単位・受講者 10 名程度)専門的課題について研究し報告する能力の向上に取り組む。
4)論文審査(大学院法学研究科)	2010.2.12	2010 年度、修士論文審査 1(副査) 税理士志望院生論文について、国際租税法上

<p>5)公務員対策講座【警察官 A 二次試験対策講座】</p>	<p>2010.8.7~12</p>	<p>の観点から助言する。 小論文対策：課題研究による論点整理、論文構成指導の上答案練習・添削を行う。 面接対策：近年小論文 30 点に対し面接 60 点のため、本指導を重視する。面接カードに記入事項の検討、面接心得指導、自己評価を徹底した上で模擬面接を行う。</p>
<p>2.作成した教材</p>		
<p>1)国際私法</p>	<p>2010 年</p>	<p>「国際私法レジュメ」として 2001 年度以降毎年版を改めて現在まで、本学受講生向けに教材として作成し配布している。なお、講義では教科書は特に指定していない。</p>
<p>2)家族法</p>	<p>2010 年</p>	<p>「家族法レジュメ」として 2001 年度以降毎年版を改めて現在まで、本学受講生向けに教材として作成し配布している。なお、講義では教科書は特に指定していない。</p>
<p>3.学生支援活動</p>		
<p>1)学習支援</p>	<p>2010 年</p>	<p>主にオフィスアワーや随時時間帯を通じて課題研究に取り組む学生の研究指導や履修指導を行う。</p>
<p>2)生活支援</p>	<p>2010 年</p>	<p>2009 年～2010 年までハラスメント人権委員会委員として学生生活全般における心理的障害を取り除くための学内生活支援に携わる。その他、オフィスアワーを通じてゼミ学生の生活習慣改善などに取り組む。</p>
<p>3)就職支援</p>	<p>2010 年</p>	<p>上記公務員対策講座「警察官 A 二次試験対策講座」のほか、</p>
<p>4)部活動支援</p>	<p>2011.4.28</p>	<p>琉球大学大学院法務研究科(ロスクール)への進学説明会「ロスクールってどんなところ？」開催（講師：武田昌則弁護士）。</p>
<p>4)学外での教育活動</p>	<p>2010 年</p>	<p>2004 年より体育会硬式テニス部 2006 年より体育会剣道部の顧問。</p>
<p>1)琉球大学での非常勤講師</p>	<p>2011.2.21~26</p>	<p>2010 年度、集中講義、琉球大学大学院法務研究科(ロスクール)「国際民事訴訟法」2 単位、受講者 11 名、2006 年度より毎年「国</p>

2)研修・セミナー講師	2011.5月・8月	<p>「国際私法」(2単位)と交互に集中で開講、現在に至る。</p> <p>沖縄弁護士会有志弁護士と「女性フォーラム沖縄」を交えた勉強会にて「ハーグ国際的子の奪取条約の批准とその後の変化」について講師を務める。なお、2011年度において、9月.11月および2012年1月まで講演会・シンポジウムなど開催予定。</p>
5)教育改善活動 1)2010年度授業評価アンケート	2010年	<p>学生による授業評価アンケートにおいて、総合評点3.3との評価を得た。授業の内容については概ね理解が進んだとの評価の一方、板書が小さい見にくいとか声が小さいなど習慣による弊害が明らかとなった。これまでも指摘されているところであるが、いまだに十分でないと感じられる。</p>
2)授業改善計画書の提出	2011年	<p>2010年度に「基礎演習」が指定科目となったため、これまでの教育内容が実践的な知識として習得できているか内省を行った結果、報告内容における専門用語の認識に学生間にばらつきがあることが判明した。</p> <p>以上</p>

研究業績等

【主要論文及び主要著書】

- ①「国際民事訴訟法におけるディスカヴァリについて」(沖縄法学 26号)
- ②「台湾国籍法の改正動向について」(沖縄法政研究創刊号)
- ③「近時の国籍法をめぐる若干の問題について」(朝日法学論集 29号)
- ④「国際相続の準拠法について」(『相続法の諸問題』所収)
- ⑤「変わりゆく家族」(『転換期の法と政治』所収)

研究分野

- ① 人工生殖技術の進展による新たな母子関係の成立と国際私法における親子関係への影響
- ② 近時の国籍法における諸問題についての立法論的考察

【Eメール・ホームページ等】

kumagai@okiu.ac.jp

平成23年8月30日現在